

2023年11月16日(木)

老球の細道761号

プレスディフェンスに対する攻撃一考察

会津バスケットボール協会 室井 富仁

バスケットボールのゲームにおいて最も悔しい負け方には2パターンある。一つは、相手のプレスディフェンスに阻まれ、ボールをフロンコートに運べず大差で負けてしまうゲームである。力の差があるチーム同士のゲームや、ミニバスケットボールなどの初心者レベルのゲームでよく見られる。もう一つは、力の拮抗したゲームの中で突然相手チームのプレスディフェンスに合い、それによるターンオーバーで自滅してしまうケースである。

前者はバスケットボールをさせてもらえなかった実力差の悔しさであり、後者はちょっとしたミスで勝てる試合を落としてしまった後悔の悔しさである。このような悔しさを選手たちに二度と味あわせないためには、コーチはプレスディフェンスに対して入念な準備をしなければならない。その準備はバスケットボールの勝敗の根幹の部分にあたるファンダメンタルの確かさとメンタルの充実にかかわる部分となる。

今週末からミニバスケットボール県優勝大会の地区予選が始まる。ミニバスケットボールの試合はゾーンディフェンスが禁止されているために、ほとんどのチームがオールコートマンツーマンで守る。その中で力のあるチームはエンドスローインから積極的にプレッシャーをかけたり、ダブルチームをしかけてくる。これに対応できないチームは大差で負けてしまう。プレスディフェンスに対して対応できないチームは、いつも同じようにターンオーバーを繰り返し、いつも同じように大差で負け、いつも同じように接戦を落とす。

プレスディフェンスとは、通常基礎体力、基礎技術で勝っているチームが劣っているチームに仕掛けるディフェンスである。また、自チームの不利な状態を一気に挽回する時にも使われる。注意力は集中し、ディフェンスすべてのプレイが積極的になる。ゲームのテンポをコントロールする、ボール運びを苦しめターンオーバーを誘う、セットオフENSEをさせない、ファーストブレイクのチャンスを作る、相手を疲れさせ等々のねらいがある。

プレスディフェンスには弱点もある。基礎体力、基礎技術が同じ力であれば、通常ディフェンスに対してはオフENSEが強い。なぜなら、プレスディフェンスを仕掛けることによって守るエリアが広くなり、ディフェンスの持つ「内線の利（オフENSEより内側に位置することによって、より小さな動きで対応できる）」や「結合の利（内側に位置することによって協力して守れる）」を自ら放棄することになる。このような弱点があるのにもかかわらず有効なのはオフENSE側のメンタルの問題が影響するからである。あわてたり、弱気になったりしてファンダメンタルの不確かさ、チームワークの結束の弱さを暴露する。

しかし、「ピンチはチャンス」という箴言がある。プレッシャー下でのファンダメンタルの充実、あわてない状況判断、そしてチームとしてのボール運びのルールなどがあれば、ボール運びのミスは徐々に少なくなる。ボールをミスなく運べればフィニッシュは、ほとんど2：1のイージーシュートで得点できる。あきらめないで抵抗し続けることである。